

協会の開催案内

マンスリーセミナー

383	4/21 (火)	高出力レーザと加工プロセス技術の最新動向 ～スキャナー、DOE（回折光学素子）による 入熱コントロール	前田工業株式会社 取締役 レーザー事業部長 三瓶 和久 氏
(内容) 高出力のレーザ加工の分野ではファイバーレーザの適用が主流になりつつある。ファイバーレーザは 100KW 機が国内に設置され、国産のファイバーレーザもキロワットクラスの製品がデビューし高出力化が進んでいる。また、加工用の半導体レーザも 20KW までの高出力化が進んでいる。 自動車を中心に、車両、橋梁、船舶にいたる様々な業界でレーザ加工の適用が進んでいる。製品を革新するための道具としてレーザ加工が活用されている。レーザ加工プロセスの進化としてスキャナーを使った光走査による溶接が量産ラインに導入されるケースが増えており、トヨタ自動車のスクリューウェルディングに見られるように、溶融池を制御して溶接品質を向上する技術としても採用されるようになっている。レーザ・アークハイブリッド溶接も大型の構造物への適用が拡大している。ファイバーを中心に、レーザの構造と特徴から始めて、最新の加工技術、そして現在研究開発を進めている回折光学素子(DOE)による光整形技術を適用した CFRP と金属のレーザ溶着技術についても紹介する。			
384	5/19 (火)	コールドストレージにおける 光ディスクの可能性	ふじわらロスチャイルドリミテッド エグゼクティブディレクター 松本 郁夫 氏
(内容) 現在でも尚、記録型ディスクだけで年間 80 億枚が世界で消費されている光ディスクであるが、民生市場は成長の基盤とは言い難くなりつつある。その状況下で、日本メーカが技術優位性を有する大容量ディスクは長期アーカイブ用途に活用の場を拓げようとしている。 近年、光ディスクは、オフラインアーカイブストレージ用途に加え、FB(フェイスブック)のデータセンタにおける光ディスク本格採用に向けた動きにより、オンラインアーカイブストレージ用途が着目されている。オンラインアーカイブにおいて、光ディスクはコールドストレージとして、省エネと 10 年以上の長期保管に耐えることが期待されている。 この注目される市場で光ディスクが本格的に採用されるために、必要とされる要件は何かを分析する。			
385	6/16 (火)	放送用先端イメージング技術とその医学応用 ～超高精細8Kテレビと超高感度HARP撮像管の 技術を中心に～	一般社団法人 メディカル・イメージング・コンソーシアム 副理事長 谷岡 健吉 氏
(内容) 筆者が長年在籍した NHK 放送技術研究所には、スーパーイメージング技術とよばれる先端映像技術・撮像技術がある。超高精細 8K テレビ技術、超高感度 HARP 撮像技術、超高速度 CCD 撮像技術の三つである。 本講演ではこの内、8K テレビと HARP 撮像管についての技術を概説とともに、それらの放送以外への応用の中でも特に最近注目を集めている医学分野での活用について述べる。また、放送技術の研究成果が全くの異分野である内視鏡手術やガンの超早期発見などを目的にした医学研究にどのような経緯で応用されたようになったのか、さらには恩賜発明賞を受賞した HARP 撮像管の発明秘話についても紹介したい。			

最新情報は光産業技術振興協会のマンスリーセミナーのページをご覧下さい。

会 場：光産業技術振興協会（有楽町線 江戸川橋駅 3番出口）
東京都文京区関口 1-20-10 住友江戸川橋駅前ビル 7階
時 間：午後 3 時 30 分～5 時 30 分
定 員：60 名（申込先着順）
<http://www.oitda.or.jp/main/monthly-j.html>

参 加 料：協会賛助会員：1,500 円（1 回につき・消費税込）
一般参加：3,000 円（1 回につき・消費税込）
申 込 先：光産業技術振興協会 開発部 潮田（うしおだ）
TEL：(03)5225-6431 FAX：(03)5225-6435
E-mail : mly@oitda.or.jp